

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13454

研究課題名（和文）宗教と移動をめぐる人類学的研究：現代中国の越境的ムスリム・ネットワーク

研究課題名（英文）An Anthropological Study of Religions and Mobilities: Transnational Muslim Networks in Contemporary China

研究代表者

奈良 雅史（NARA, Masashi）

国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授

研究者番号：10737000

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国浙江省義烏市における現地調査に基づき、中国内陸部から中国沿岸部にアラビア語通訳として出稼ぎに行く回族と呼ばれるムスリム・マイノリティの移動に焦点を当て、中国とイスラーム諸国との間での経済交流の促進が人々の移動の活発化をもたらし、イスラーム復興に影響を与えてきたプロセスを考察した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降は中国大陸での調査が困難になったため、インドネシア人を中心とする外国人ムスリムが増加する台湾のムスリム・コミュニティを対象に、台北市と桃園市において現地調査を実施し、外国人ムスリムの増加が中華系ムスリムの宗教実践にもたらす影響について考察を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、東アジアにおけるトランスナショナルなムスリム・コミュニティの形成過程とそのイスラーム復興への影響を明らかにすることで、イスラーム世界を中心にイスラーム復興を捉えてきた既往研究を相対化するとともに、宗教研究における移動論的転回を検討し、従来の議論の枠組みに対して新たな視座を提示した点にある。

社会的意義は、東アジアにおいて増加傾向にあるムスリムのコミュニティの実態を明らかにすることで、ムスリムおよび非ムスリムとのあいだでの共在のあり方についての視座を提示した点にある。

研究成果の概要（英文）：Based on fieldwork in Yiwu City, Zhejiang Province, China, this study examined how the promotion of economic exchanges between China and Islamic countries has stimulated the movement of people and influenced Islamic revival in China, focusing on the migration of Muslim minorities, known as Hui, from inland China to coastal China to work as Arabic interpreters. Since it became difficult to conduct fieldwork in mainland China after the spread of the COVID-19, the study examined the impact of the increase in the number of foreign Muslims on the religious practices of Sino-Muslims in Taiwan, based on the field research that was conducted in Taipei and Taoyuan, where the number of foreign Muslims, mainly Indonesians, is increasing.

研究分野：文化人類学

キーワード：宗教 移動 ムスリム 回族 中国 モビリティ 台湾 イスラーム

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、イスラームに関する人類学的研究では、既往研究においてイスラーム復興の宗教的側面が過度に強調され、イスラーム復興を取り巻く世俗的な社会状況を等閑視してきたことが批判されてきた。そのため、近年の研究では、イスラーム復興運動が西洋的なモダニティや新自由主義経済と必ずしも矛盾するものではなく、むしろそれらとの関与を強めながら進展してきたことが報告されている (e.g. 2010. Rudnycky, D. 2010. *Spiritual Economies: Islam, Globalization, and the Afterlife of Development*. Cornell University Press)。

しかし、そこでの主な問題は、いかにグローバル経済などの世俗的要素がローカルなムスリム・コミュニティにおけるイスラーム実践に影響を及ぼしてきたかという点にあった。そのため、ローカルなコミュニティを静態的に捉え、グローバル経済による影響によって活発化する人々の移動を等閑視する傾向にあった。しかし、近年の人類学、社会学では、従来の社会科学が固定的、定住的な社会を前提とされてきたことが批判され、社会をヒトやモノなど多様なアクターの移動を通じて常に再編されていく動的なネットワークとして捉えようとする「移動論的転回」という試みがなされている (e.g. Kirby, P.W. (ed.). 2010. *Boundless Worlds: An Anthropological Approach to Movement*. Berghahn Books, アーリ, J. 2015 『モビリティーズ：移動の社会学』吉原直樹・伊藤嘉高訳, 作品社)。

また、社会主義国家として、宗教に対して抑圧的な政策が採られている中国では、イスラーム復興はアイデンティティ・ポリティクスとして分析される傾向にあった (e.g. Gillette, M. B. 2002. *Between Mecca and Beijing: Modernization and Consumption Among Urban Chinese Muslims*. Stanford University Press) 。そのため、これらの研究はムスリムが宗教復興によって支配的構造に働きかけ、自律性を獲得しうることを前提としていた。そのため、宗教運動は抵抗の手段として捉えられる傾向にあった。しかし、社会運動に関する人類学的研究では、社会運動により自律性が獲得されるのではなく、国家により社会運動の主張が取り込まれることで、運動参加者たちがむしろ自律性を失うというパラドックスが指摘されてきた (e.g. Palay, J. 2001. *Marketing Democracy: Power and Social Movements in Post-Dictatorship Chile*. University of California Press) 。報告者はこうした研究動向を踏まえ、人々がいかに微細な移動によって国家による管理統制を回避し、いかに自律性を保ってきたのかを明らかにしてきた (e.g. 奈良雅史 2015 「動きのなかの自律性：現代中国における回族のインフォーマルな宗教活動の事例から」 『文化人類学』 80(3): 363-385) 。しかし、回族という特定のエスニック・グループによる一定の地域内での移動に焦点が当てられ、近年の中国経済のグローバル化に伴い、その移動範囲がいかに特定の地域を越えて広がり、多様なエスニシティの人々からなるトランスナショナルなネットワークが形成され、それが回族にいかなる可能性を開いているのかについては十分に検討されていない状況にあった。

2. 研究の目的

報告者は、以上の研究開始当初の学術的背景のもと、次の2点を学術的な「問い」として設定した。経済のグローバル化に伴う人々の移動の活発化と不可分なものとして展開するイスラーム復興のプロセスはいかなるものか。民族や国境を越えるムスリム・ネットワークは中国のムスリム・マイノリティに国家による宗教への管理統制に対処するうえでいかなる可能性を開いているのか。報告者はこれらの問いに答えるために、本研究の目的を、中国内陸部から中国沿岸部にアラビア語通訳として出稼ぎに行く回族と呼ばれるムスリム・マイノリティの動きに焦点を当て、中国政府による「一帯一路」構想の推進に伴う中国とイスラーム諸国との間での経済交流の促進が人々の移動の活発化をもたらし、イスラーム復興を促進してきたプロセスを明らかにし、宗教とモビリティをめぐる理論的モデルを提示することと位置付けた。

以上の目的を達成するため、報告者は、4つの課題を設定した。第一に、回族と呼ばれるムスリム・マイノリティの出身地におけるイスラーム復興の状況と沿岸部への出稼ぎの実態および宗教活動に大きく影響する中国共産党の宗教政策、および出稼ぎに影響する中国共産党の経済政策の実施状況についても明らかにすること。第二に、出稼ぎ先でのトランスナショナルなムスリム・コミュニティの実態とそこでの宗教実践のあり方を明らかにすること。第三に、回族出稼ぎ労働者の出身地における彼らの出稼ぎ経験がイスラーム復興に与える影響を明らかにすること。さらに第四として、これらの課題に並行してモビリティに関する理論的研究を行うこと。

3. 研究の方法

本研究では、上述した4つの課題に取り組むために4年間をかけて、それぞれの課題に対応し

た3つの事例研究と1つの理論研究を実施する。

課題 ①では、沿岸部における回族アラビア語通訳の主要な出身地の一つである雲南省昭通市における参与観察を中心とした現地調査を通じてイスラーム復興およびアラビア語教育の実態、および沿岸部への出稼ぎの実態を明らかにする。また、それらに大きな影響を与える中央政府および地方政府の宗教政策、民族政策、経済政策についての文献調査を実施する。

課題 ②では、アラビア語通訳の主要な出稼ぎ先である浙江省義烏市において参与観察を中心とした現地調査を実施し、回族アラビア語通訳と外国人ムスリムとの関係からトランスナショナルなムスリム・コミュニティの実態を明らかにする。

課題 ③では、課題 ①の成果を踏まえて、回族アラビア語通訳の沿岸部での出稼ぎ経験がイスラーム復興に与える影響を明らかにするために雲南省昭通市で改めて参与観察および聞き取り調査を中心とした現地調査を実施する。

課題 ④では、以上の成果を踏まえ、モビリティおよびトランスナショナリズム、自律性に関する理論研究を行う。

4. 研究成果

本研究は、上述のように中国大陸で実施する現地調査に基づくものである。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴う感染対策により、初年度である2019年度を除き、中国大陸での現地調査を実施することができなかった。そこで本研究では、それまでに中国大陸での調査で得られたデータの分析を進めるとともに、研究期間の途中から台湾におけるムスリム・コミュニティを対象とした現地調査を実施した。それは、台湾にも本研究で対象とした回族と同様に中国語を日常的に話すムスリムが暮らしていることに加え、インドネシア人をはじめとする外国人ムスリムが増加しており、モビリティの高まりと宗教実践との関係を明らかにしようとする本研究のテーマを継続できると考えたためである。以上の状況から、本研究の成果は、地域的には、主に中国大陸を対象としたものと台湾を対象としたものに大きく分けられる。

第一に、中国大陸における調査研究の結果として明らかになったことは次の点である。改革開放以降、調査地である浙江省義烏市には日用品の卸売市場が設けられるとともに、中国における主要な輸出基地のひとつとみなされるようになり、義烏市は多くの国や地域との交易を担う国際的な商業都市として発展してきた。そのなかでも特にアラブ諸国との取引が多く、アラブ人商人が義烏市の国際化に大きな役割を果たしてきた。こうした状況下、回族をはじめとする中国国内のイスラーム系少数民族もアラビア語通訳やハラール産業に商機を見出し、出稼ぎにやってくるようになった。先行研究では、その結果、義烏市にはイスラーム信仰を共有するトランスナショナルなムスリム・コミュニティが形成されてきたと論じられてきた。しかし、本研究で明らかになってきたのはこうした多様な出自を持つムスリムたちが宗教性を必ずしも共有しておらず、凝集性の高いコミュニティを形成しているわけではないということである。ただし、こうした多様なムスリムの緩やかな共在は、宗教性の違いによるコンフリクトを引き起こすことなしに、回族がグローバルウンマを実感する契機ともなっており、その意味で中国におけるイスラーム復興を促進する側面があることが明らかになった。

第二に、台湾におけるムスリム・コミュニティを対象とした調査研究によって明らかになったのは次の点である。台湾における中華系ムスリム・コミュニティは、中国大陸の回族コミュニティに比して、人口規模が小さく、イスラーム学校もないため、宗教指導者を台湾において自分たちで養成することができない状況にある。そのため、タイやミャンマーの華人ムスリム・コミュニティから宗教指導者を招聘することで、ムスリム・コミュニティを再生産してきた。しかし、少子高齢化や世俗化の影響も大きく、日常的にモスクにおける宗教活動に参加する中華系ムスリムは少ない。こうした状況下、移住労働者や留学生として台湾にやってきたインドネシア人を中心とする外国人ムスリムがモスクにおける日常的な宗教活動にとって不可欠な存在となってきた。その意味で、一見すると台湾でもムスリム・アイデンティティでつながったトランスナショナルなムスリム・コミュニティが形成されてきたように見える。しかし、他方で祭礼における役割分担には、労働市場と同様のヒエラルキーが看取され、必ずしも多様なムスリムたちが強固な連帯を形成しているわけではない。ただし、インドネシア人を中心とする外国人ムスリムたちは中華系ムスリムが支配的な構造において抑圧されているだけでは必ずしもなく、ムスリムがマイノリティな台湾だからこそ、ムスリムがマジョリティであるホームでは関与しにくい宗教活動に加わることができ、そこに喜びを見出すとともに、ムスリムとしてのアイデンティティを高めることにもつながっている状況が明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 NARA Masashi	4. 巻 55
2. 論文標題 Family Change and Caring for Piety among Hui Muslims	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MINPAKU Anthropology Newsletter	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 NARA Masashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Yiwu as a Multicultural Sphere: Coexistence of Transnational Muslims in Contemporary China	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings: International Symposium "Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices"	6. 最初と最後の頁 7-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河合洋尚・横田浩一・奈良雅史	4. 巻 1
2. 論文標題 臺灣客家宗教的過去與現在：重返日本人類學家的田野地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 客・觀	6. 最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奈良雅史	4. 巻 14
2. 論文標題 エスニック・ツーリズム開発に伴う民族間関係の変化：中国雲南省における回族社会の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學研究開発センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 196 - 214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合洋尚, 横田浩一, 奈良雅史	4. 巻 1
2. 論文標題 臺灣客家宗教的過去與現在：重返日人類學家的田野地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 客・観	6. 最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良雅史	4. 巻 186
2. 論文標題 中華とイスラームのはざままで：現代中国を生きる回族	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良雅史	4. 巻 8
2. 論文標題 観光現象への新たな視座	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 民博通信Online	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国におけるムスリムの歴史と文化
3. 学会等名 奈良シニア大学一般教養講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 敬虔さをめぐる関係性：中国におけるムスリム・コミュニティにとっての場所とその変化
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国ムスリムの婚姻
3. 学会等名 みんなくウィークエンド・サロン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Entanglement between Religion and Tourism: Interlocking of "Tourismization" and "De-tourismization" in Tourism Development among Hui Muslims
3. 学会等名 The 4th Annual Meeting of the East Asian Society of Scientific Study of Religion (EASSSR) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 観光化/脱観光化と真正性の関係性：中国雲南省における回族地域の観光開発の事例から
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「グローバル化時代における「観光化/脱-観光化」のダイナミズムに関する研究」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Caring for Piety: Doing Muslim among the Hui in Contemporary China
3. 学会等名 International Workshop “Beyond Piety and Impiety: Ambiguous Practices of Sino-Muslims in Historical and Contemporary Asia”
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Post-Sectarian Tendencies through Islamic Revival among the Hui People in Contemporary China
3. 学会等名 International Workshop “Islam in China: Sects and Sectarianism”
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国における宗教と風紀：回族によるアルコール排斥運動の展開
3. 学会等名 第534回国立民族学博物館友の会講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Introduction: Global China from Sino-Muslim Perspectives
3. 学会等名 International Symposium “Global Area Studies: Towards a New Epistemology for Mapping the Globalizing World”
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Caring for Piety: Changes of Family Forms among Hui Muslims in Contemporary China
3. 学会等名 International Symposium 'Family Potential in Uncertain Times'
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「目に見えないもの」と人類社会
3. 学会等名 みんなばく公開講演会「『目に見えないもの』と生きる 食からみたヒトと微生物のかかわり」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 歴史のなかの「宗教の中国化」とイスラームの展開
3. 学会等名 「ムスリム・マイノリティ/ムスリム移民と宗教復興の諸相」第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 コミュニティの再生産といくつかのモビリティ：台湾におけるムスリムの事例から
3. 学会等名 民博共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のかみあい」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Yiwu as a Multicultural Sphere: Coexistence of Transnational Muslims in Contemporary China
3. 学会等名 The International Conference “Muslims in China and their Multicultural Spheres: Coexistence through Migratory, Cultural, and Economic Practices”
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Formation of Public Morality: Entanglement of the State Regulation of Religion and the Islamic Revival in Contemporary China
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS 12) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 民族観光における真正性：中国の少数民族を事例として
3. 学会等名 2021年度第2回MMPステップアップ講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 民族観光の展開：中国雲南省回族社会の事例から
3. 学会等名 民博共同研究「グローバル化時代における「観光化/脱-観光化」のダイナミズムに関する研究」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 排他をもたらす連帯：中国都市部におけるムスリム・コミュニティの変容
3. 学会等名 民博共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国における宗教の人類学：成立宗教を中心とした研究動向
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「社会・文化人類学における中国研究の理論的定位置：12のテーマをめぐる再検討と再評価」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 非イスラーム世界のイスラーム：中国におけるムスリムの宗教性と民族性をめぐって
3. 学会等名 2020年度中東 イスラーム教育セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 出稼ぎ先は「小さな国連」 国際貿易都市・浙江省義烏市に暮らすムスリムたち
3. 学会等名 第501回みんぱくゼミナール
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国におけるハラールフード
3. 学会等名 第568回みんなくウィークエンド・サロン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国に生きるムスリムたち
3. 学会等名 第496回国立民族学博物館友の会講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 エスニシティの変容とゆらぐマジョリティ/マイノリティの境界：中国雲南省における回族の事例から
3. 学会等名 2019年みんなく若手研究者奨励セミナー「ゆらぐマジョリティ/マイノリティ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「異教徒」を迎え入れる：中国雲南省紅河州沙甸区における民族観光
3. 学会等名 日本文化人類学会 課題研究懇談会 「歓待の人類学」第3回公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 オンライン・コミュニティによる観光実践：観光が生み出す社会的つながり
3. 学会等名 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院2019年度公開講座「観光とメディアの新たな出会い」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nara Masashi
2. 発表標題 Changes in Textbooks of Islamic Education and Entanglements of Ethnicity and Religiosity
3. 学会等名 EAAA (East Asian Anthropological Association) Annual Meeting 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 日本的回民研究
3. 学会等名 中日人類学学术交流研討会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nara Masashi
2. 発表標題 Entanglement of Islamic Missionary Activities and Islamophobia through Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China
3. 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nara Masashi
2. 発表標題 Exchange of Piety: Islamic Revival and Social Change among Hui Muslims in Contemporary China
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the EASSSR (East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 民族間関係の変容：中国雲南省回族社会における民族観光とイスラモフォビア
3. 学会等名 第296回民博研究懇談会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 宗教・民族を越えた共在：国際貿易都市・浙江省義烏市 におけるムスリムを中心に
3. 学会等名 奈良シニア大学一般教養講座
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 現代中国における「イスラーム復興」
3. 学会等名 2023年度慶応義塾大学東アジア研究所講座「歴史のなかの中国社会：疎外と連帯」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nara Masashi
2. 発表標題 Surviving Secularism in China: A Case Study of Islamic Practices by Hui Muslims
3. 学会等名 The 37th Biennial ISSR (International Society for the Sociology of Religion) Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 空間 - 時間的 な出来事 としてのコミュニティ
3. 学会等名 民博共同研究「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 台湾における草の根的ムスリム・ネットワークの展開
3. 学会等名 慶応義塾大学東アジア研究所創立20周年記念公開シンポジウム「東アジアの歴史と現在：その動態的把握」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nara Masashi
2. 発表標題 Emergence and Ambiguity of Intra-Muslim Boundaries: Everyday Life among Hui Muslims in Kunming, Yunnan Province
3. 学会等名 International Workshop "Islamic Sectarianism in China" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中華とイスラームの交差からみる東アジア
3. 学会等名 東アジア人類学研究会20周年記念シンポジウム 「東アジア人類学のこれからを考える」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 国家統制と社会矛盾のはざままで 模索される「中国の特色ある」ヒップホップ
3. 学会等名 第5回辺境ヒップホップ研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 台湾における「トランスナショナル」なムスリム・コミュニティの展開
3. 学会等名 科研費「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と歓待の実践知に関する人類学的研究」第2回研究会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 4
3. 書名 「ラマダーン月の実践(中国回族)」、「宣教、宗教教育(中国回族)」(イスラーム文化事典編集委員会編『イスラーム文化事典』)	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 13
3. 書名 「真正性：観光における本物らしさという価値」（市野澤潤平編『基本概念から学ぶ観光人類学』）	

1. 著者名 奈良雅史編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 148
3. 書名 『多元化する台湾のムスリム・コミュニティ（SIAS Working Paper Series 36）』	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 14
3. 書名 「台湾におけるモスクとその活動」奈良雅史編『多元化する台湾のムスリム・コミュニティ（SIAS Working Paper Series 36）』	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 17
3. 書名 「台湾におけるムスリム・コミュニティの「多元化」についての試論」奈良雅史編『多元化する台湾のムスリム・コミュニティ（SIAS Working Paper Series 36）』	

1. 著者名 藤野陽平, 奈良雅史, 近藤祉秋編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 モノとメディアの人類学	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 15
3. 書名 ヴァーチャルとリアルのもつれ合い：中国雲南省昆明市におけるムスリム・コミュニティの変容（『モノとメディアの人類学』）	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 20
3. 書名 分裂とつながり：現代中国におけるムスリム・コミュニティの変容と生誕祭の活発化（『いま私たちをつなぐもの：拡張現実時代の観光とメディア』）	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 20
3. 書名 アルコール排斥の多義性と風紀の形成 現代中国における回族の実践と国家による宗教管理（『宗教と風紀：「聖なる規範」から読み解く現代』）	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 33
3. 書名 出稼ぎ先は「小さな国連」 浙江省義烏市に暮らすムスリムたち（『中国の国内移動：内なる他者との邂逅』）	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 29
3. 書名 国家をかわす 現代中国における回族のインフォーマルな宗教活動（『中国・台湾・香港の現代宗教：政教関係と宗教政策』）	

1. 著者名 奈良雅史（石森大知・丹羽典生編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 35
3. 書名 ムスリムによる公益活動の展開：中国雲南省昆明市回族社会の事例から（『宗教と開発の人類学：グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』）	

1. 著者名 西川克之・岡本亮輔・奈良雅史編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 348
3. 書名 フィールドから読み解く観光文化学：「体験」を「研究」にする16章	

1. 著者名 奈良雅史（西川克之・岡本亮輔・奈良雅史編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 17
3. 書名 観光の領域横断的な拡がり：中国ムスリムの宗教 / 観光実践（『フィールドから読み解く観光文化学：「体験」を「研究」にする16章』）	

1. 著者名 河合洋尚・奈良雅史・韓敏編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 435
3. 書名 中国民族誌学：100年の軌跡と展望	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 12
3. 書名 「宗教：制度宗教をめぐるポリティックスとグローバルな連関」（河合洋尚・奈良雅史・韓敏編『中国民族誌学：100年の軌跡と展望』）	

1. 著者名 河合洋尚・奈良雅史	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 15
3. 書名 「「文明の人類学」をめぐる一試論」（河合洋尚・奈良雅史・韓敏編『中国民族誌学：100年の軌跡と展望』）	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 4
3. 書名 「中国（回）」（川田牧人・松田素二編）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap https://researchmap.jp/naramasashi/?lang=japanese 国立民族学博物館「スタッフの紹介」 https://www.minpaku.ac.jp/post-staff/6234
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Workshop “Beyond Piety and Impiety: Ambiguous Practices of Sino-Muslims in Historical and Contemporary Asia”	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------